

別紙様式 1

令和 8 年度昭和北中学校区研究推進計画

校番 (1 7) (昭和北中) 学校

校長名 九十九 尚志

1 学校教育目標

未来を拓く人間の育成

2 目指す児童生徒像

自ら学び，共に学び合う児童生徒

- ・協働して安心できる学校を創ろうとする児童生徒
- ・主体的に問題や課題と向き合う児童生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

設定した資質・能力	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
	知識・技能	協働的問題解決力	心の回復力
	・学習したことを理解し，様々な場面で活用できる。	・相手の考えに共感したり，多様な考えを共有したりし，あらゆる角度から総合的に考え問題を解決することができる。	・逆境や困難な状況でも，自らの課題と向き合い，取り組もうとする。 ・学んだことを実生活で生かそうとする。
後期	・必要な知識や技能を選んだり，組み合わせたりしながら課題解決ができる。	・共通の課題解決に向け，結果を予測しながら実行し，プロセスを振り返り，次の課題発見・解決につなげることができる。	・進んで協働しながら，個人や集団の課題を解決しようとする。 ・学んだことを実生活で生かそうとする。
中期	・既習内容を使って課題解決ができる。	・課題意識をもちながら互いの考えを共有し，多面的，総合的に問題の解決方法を協働して考えることができる。	・周りの人の助けを借りながら，個人や小集団の課題を自ら解決しようとする。 ・自分に合った目標を設定しようとする。
前期	・新しく習得した知識や技能を使うことができる。	・自分と友達のを考えを比較しながら，問題の解決方法を協働して考えることができる。	・自分から困っていることを伝えて，課題を積極的に解決しようとする。 ・他者を理解し，受け入れようとする。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に聴き、学び合う児童生徒の育成
～安心・安全な学びの環境づくりを土台として～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本中学校区では、昨年度から「自らを生きし、共によりよく生きようとする児童生徒の育成～安心して学校生活を送ることができる風土の醸成を通して～」を研究主題として、インクルーシブ教育や心の回復力（レジリエンス）の育成、生徒指導の四つの視点を生かした集団づくりを通して、安心して学校生活を送ることができる風土の醸成を行ってきた。全ての部会でSEL-8Sを通した取組を行い、逆境や困難な状況でも、自らの課題と向き合う児童生徒の育成を行った。昨年度実施した児童生徒アンケート（令和7年度実施）の結果は、次のとおりである。

感情調整	54.4%（前年度比-4.2pt）
新奇性の追求	83.4%（前年度比+1.1pt）
肯定的な未来志向	83.1%（前年度比+3.5pt）
将来の目標	86.8%（前年度比+3.2pt）

この結果から、感情調整の項目には課題があるが、新奇性の追求や肯定的な未来志向、将来の目標に関する意識については高まりが見られていることがわかる。次年度においても、これらの意識の高まりを維持・発展させるとともに、感情調整の力の育成に継続的に取り組んでいきたい。

一方で、標準学力や実力試験の結果から、基礎的基本的な学力の定着および学習の理解には大きな課題が見られた。昨年度実施した標準学力および実力試験の正答率の結果は、次のとおりである。なお、前年度比は同学年の1年前の得点と比較している。（小1は前年度未就学児、中1は前年度小学生のため、前年度比を算出しない。）

	国語	算数・数学
小1	84.7%（前年度未就学）	87.8%（前年度未就学）
小2	75.8%（前年度比+9.5pt）	68.3%（前年度比-11.7pt）
小3	68.3%（前年度比-10.3pt）	61.3%（前年度比-1.1pt）
小4	61.6%（前年度比-8.2pt）	58.1%（前年度比-8.8pt）
小5	69.4%（前年度比+2.9pt）	66.3%（前年度比+4pt）
小6	63.4%（前年度比-10.6pt）	59.6%（前年度比-0.6pt）
中1	37.0%（前年度小学生）	27.4%（前年度小学生）
中2	53.7%（前年度比-0.3pt）	39.2%（前年度比-22.7pt）
中3	49.5%（前年度比+4.4pt）	42.0%（前年度比-11.9pt）

この結果から、小・中ともに、昨年度よりも正答率が低下していることがわかる。学年が上がり、問題が難化していることも原因の一つと考えられるが、それを踏まえても正答率が低く、今後、基礎的基本的な学力を向上させる取組を重点的に行う必要がある。

本中学校区の児童生徒の日常の学習の様子から、「話の要点を捉えられない」「指示を正確に理解できない」「友達の考えを踏まえて自分の考えを深められない」などの課題が見られた。教師や友達の話をも十分に理解しないまま学習を進めていることが、学力の低下につながっていると考えられる。このような実態の背景には、「聴くこと」に対する意識の低さや目的をもって聴く経験の不足があると考えられる。そこで、本年度は「聴くこと」を受動的な行為ではなく、思考を伴う能動的な学びの基盤と捉え直し、児童生徒の聴く力を段階的に育成することが、学力向上に資すると考え、本主題を設定した。

(3) 研究仮説

児童生徒が安心して学び合うことのできる環境を整え、段階的に学びを深める聴き方を育成すれば、思考を伴う能動的な学びが実現し、学習内容の定着が促され、学力の向上につながるであろう。

5 研究内容

[授業づくり部会]

○ 部会テーマ

「学びを深める聴き方」を基盤とした授業づくり

○ 取組内容

- ・「学びを深める聴き方」の指導
- ・生徒指導の4つの視点をいかした授業づくり（対話的な学びの充実）
- ・振り返り活動の充実
- ・個に応じた支援方法の充実
- ・ICTの計画的かつ効果的な活用

[集団づくり部会]

○ 部会テーマ

児童生徒が安心して学校生活を送ることができる集団づくり

○ 取組内容

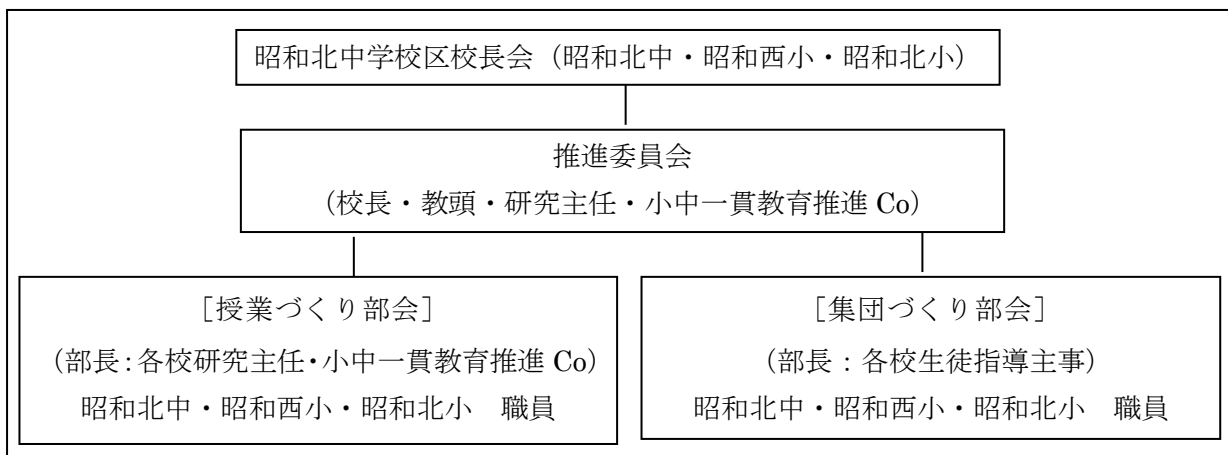
- ・学習プログラムの実施（SEL-8S）
- ・小中一貫した生徒指導規定や学習規律づくりの具体化
- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
学力の向上を図れたか。	標準調査・実力試験結果	前年度との比較	小1年 国84.7点 算87.8点 2年 国75.8点 算68.3点 3年 国68.3点 算61.3点 4年 国61.6点 算58.1点 5年 国69.4点 算66.3点 6年 国63.4点 算59.6点 中1年 国37.0点 数27.4点 2年 国53.7点 数39.2点 3年 国49.5点 数42.0点	前年度比 +5点
「学びを深める聴き方」の指導により聴く力が向上したか。	聴く力に関する児童生徒アンケート	前学期との比較		
集団づくり部会の取組による、感情を調整する力の向上が図れたか。	感情調整に関する児童生徒アンケート	前学期との比較	感情調整 54.4%	60%以上
不登校の児童生徒が減少したか。	不登校の児童生徒数	年度初めと年度終わりとの比較	不登校 北中 22人 北小 26人 西小 8人	

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業（中→小）

教科	算数
実施対象学年	第5学年・第6学年
時数	昭和西小 第5・6学年 5時間 昭和北小 第5・6学年 7時間
教科	未定
実施対象学年	第6学年
時数	3学期 1時間

イ 小学校教科担任制等

- ・昭和北小 第2学年（音楽）
第3学年（書写）
第4学年（書写・理科）
第5学年（理科・音楽・家庭科）
第6学年（理科・音楽・家庭科）
- ・昭和西小 第3学年（音楽）
第4学年（理科）
第5学年（理科・音楽・書写）
第6学年（理科・音楽・家庭科）

8 推進計画

月日	内 容		
	昭和北中	昭和西小	昭和北小
4月16日(木)	幹事会「年間計画・取組内容」「第1回合同研修会について」		
6月 2日(火)	第1回小中一貫教育合同研修会（講師 広島工業大学教授 竹野英敏）		
7月30日(木)	第2回小中一貫教育合同研修会（北中）：全体会・部会		
9月24日(木)	幹事会「第3回小中一貫教育合同研修会について」		
10月29日(木)	第3回小中一貫教育合同研修会（西小）… 5校時授業研・協議会		

10月 6日(火)	陸上記録会合同練習会
10月22日(木)	西小：10月22日(木) 北小：10月 6日(火)
1月14日(木)	幹事会「研修会の成果と課題・第4回合同研修会について」
1月26日(火)	第4回小中一貫教育合同研修会(北中)…部会・全体会
2月 4日(木)	中学校入学説明会(6年生)
2月16日(火)	乗り入れ授業(西小6年生)
2月18日(木)	乗り入れ授業(北小6年生)
3月 2日(火)	幹事会「次年度推進計画について」
3月23日(火)	6年生連携

9 その他

- ・小中一貫だより(年3回発行予定)

※ 研究構想図, カリキュラムマップを添付する。